令和5年度　船員安全・労働環境取組大賞

受　賞　者：株式会社西村組

取組の名称：作業船ゼロ災害への取り組み

取組の概要：作業船での災害防止に関する６項目の取組みを実施。
どの取組みも大きな手間はかからず、誰でもすぐに真似できる。

【具体的な取組の内容】

〇工具保管場所に各工具のシルエットを書き、どの工具がどこにあるか一目瞭然にすることで、自然と正しい部分に掛けたくなるよう工夫（ナッジを活用）

〇ヒヤリ・ハット事例を分かりやすく図にし、掲示板や甲板上等、目につきやすい箇所に掲示している他、毎日の朝礼や安全教育等でも活用し、同種の災害が起きないように注意喚起
〇バックホウの運転席からの視界を様々な角度から撮影することで、運転経験が少ない人にも死角の多さがイメージしやすいように写真で掲示し、作業員全員に危険性の周知を実施

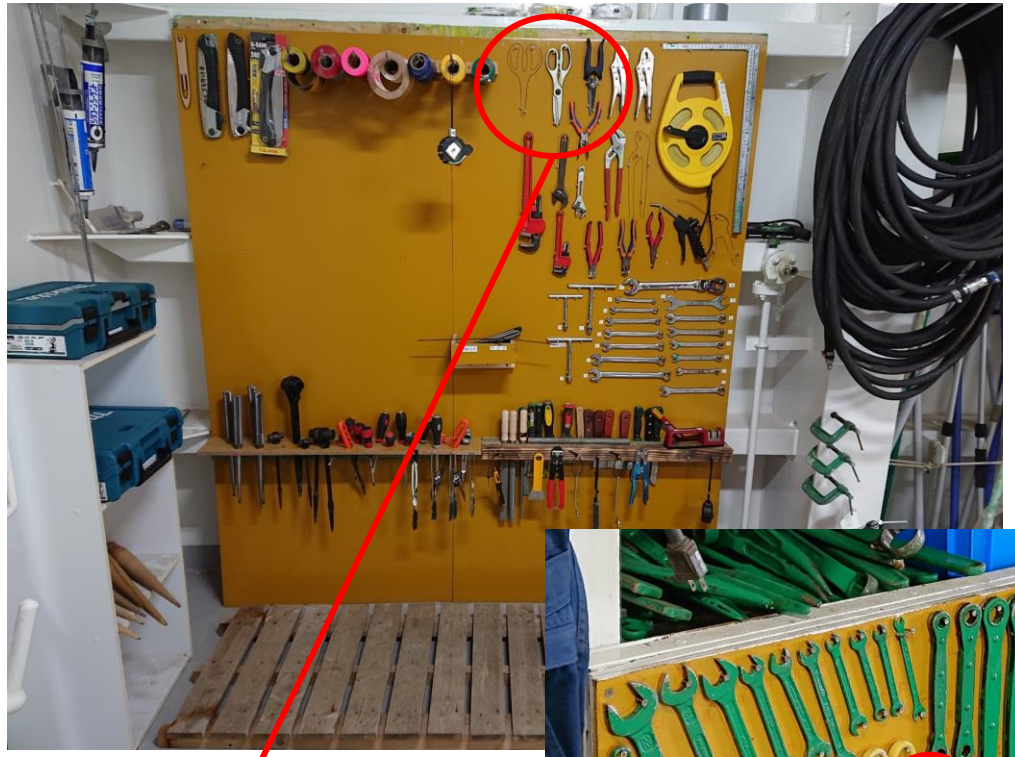
〇昇降施設（階段等）に「手すりを持って昇降すること」といった注意喚起を促すポスターを掲示

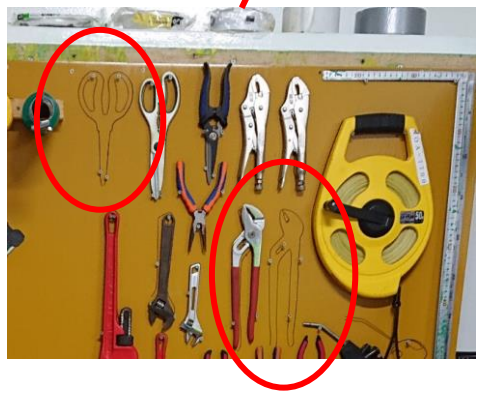
〇作業状況を動画で撮影し「危険な箇所はないか」、「作業手順は適切か」等、全員で確認することで、他人の動きも確認でき、口頭での説明のみでは理解しづらい新人等であっても容易に理解することが可能

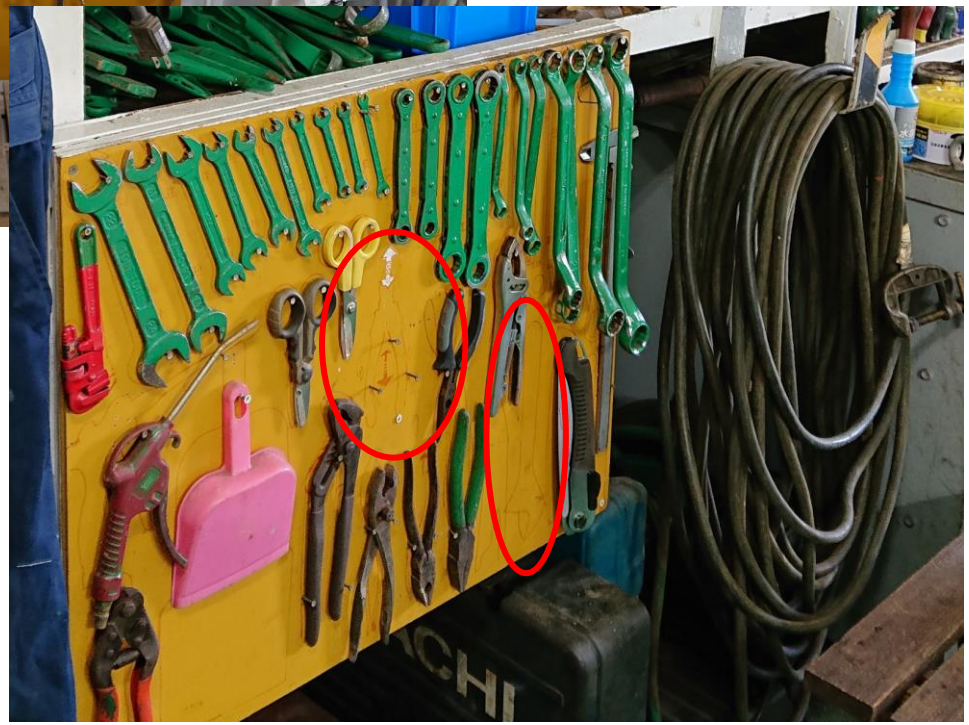
〇小さな段差や階段等の転倒のリスクが高い箇所をペンキで色塗り

【具体的な成果】

取組開始後、転倒災害や重機災害等は発生していないので、どれも災害防止効果のある取組







◀工具の掛ける位置を一目瞭然に！

工具保管場所に各工具のシルエットを書き、
そこに工具を納めています。工具のシルエットを
予め書いておくことで、自然と正しい部分に
掛けたくなるよう工夫しています。
どの工具がどこにあるか一目瞭然ですし、
整然と並んでいると気持ちよく使用することが
できます。

株式会社
西村組

◀ヒヤリハットを図示してわかりやすく！

ヒヤリハット事例をわかりやすく図にして、掲示板や甲板上に掲示し、いつでも確認できるようにしています。

毎日の朝礼や安全教育等でも活用し、同種災害が起きないよう日々気を付けて作業を行っています。

その甲斐があって、この取り組みを実施してからは、労働災害の発生や同類のヒヤリハット報告もなくなりました✨

株式会社 西村組

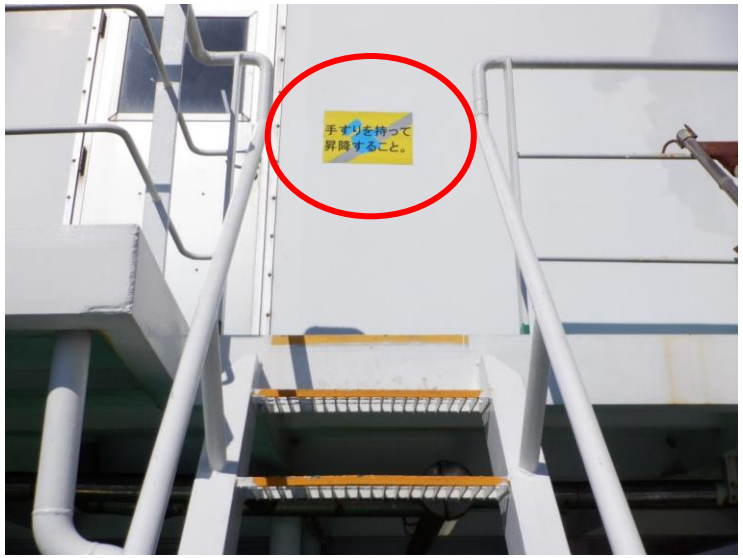
◀バックホウの死角を写真で掲示して危険を一目瞭然に！

バックホウの運転席からの視界を
様々な角度から撮影することで、
バックホウの運転経験がない人にも
死角の多さがイメージしやすいよう
工夫して掲示しました。
右側はアームがあるため想像以上に
死角が多いことがわかります。
基本的に動いている重機の周囲には
近づかないことを現場のルールと
していますが、より強く危険性を
認識してもらうことで「うっかり
近づいてしまい接触」といった事故を
未然に防ぐ目的があります。

◀バックホウの死角を写真で掲示して危険を一目瞭然に！

船の甲板に写真を掲示し、
実際にバックホウを見ながら
作業員全員に危険性を周知しました。
「思っていたよりも死角が多いね！」
「ぶつかったら大ケガするかも
しれないし、気をつけないといけないね」
とみんな気持ちが引き締まったようです✨

株式会社 西村組



◀昇降施設に手すり使用を促す注意喚起を掲示

船上での作業がメインの現場なので、
昇降設備を上り下りする場面が非常に多くなっています。
そこで、昇降施設付近には「手すりを持って昇降すること。」といった注意喚起の掲示を行うとともに、現場内作業員にも適宜手すりを使用するよう周知を行っています。
その甲斐あってか、今のところ船上での転落災害は発生していません！✨

株式会社
西村組

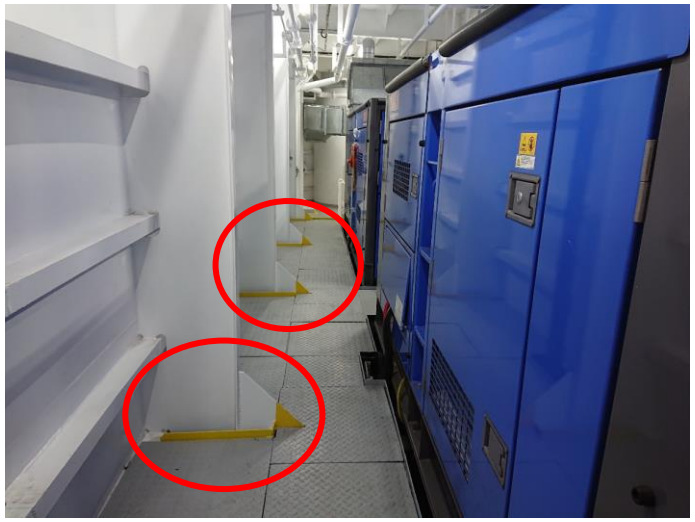
◀作業動画を見ながら日々の打合せを実施

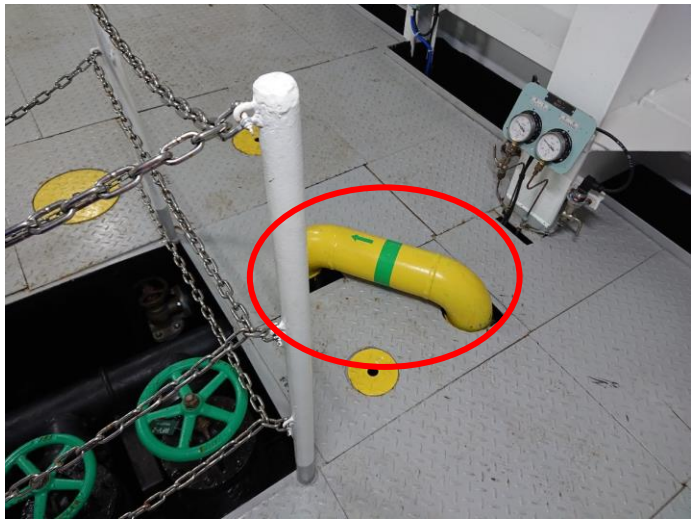
作業状況を動画で撮影し、後から作業員全員で見返すことで、「危険なポイントはないか？」「現行の作業手順は適切か？」をみんなで一緒に考えながら確かめています。

自分の動きだけでなく他人の動きも確認できるので、他の人の良い動きを参考にすることもできます。

未熟練者などは机上で説明しても理解が難しい場合がありますが、動画で確認することで、熟練度合いに関わらず理解を深められます。

株式会社 西村組





◀通路上の段差をペンキで色塗りして注意喚起

作業船内は小さな段差や階段等が多いほか、船倉内は配管等が飛び出している部分もあるため、転倒リスクが高い空間となっています。そのため、危険箇所をペンキで色塗りすることで、転倒災害の防止に取り組んでいます。

株式会社 西村組